

今号の表紙から

平下神谷にある「株式会社アグリパークいわき」は、ハウスいちごを中心とした栽培・販売及びいちごの摘み取りや直売を行う観光農園として平成22年に設立されましたが、震災の影響等で平成23年12月下旬に、面積約40アールの連棟ハウスの建設に着工し、平成24年3月下旬に完成しました。

栽培するための土は、放射性物質のことも考え、遠く九州から運んできたそうです。9月中旬に、3万6千本のいちごの苗の定植を行い、品種的には、とちおとめを20アール、あきひめを10アール、



紅ほっぺを10アール栽培しているとのこと。表紙写真のとおり、高設栽培を採用しているため、収穫作業は土耕の場合より楽であるとのこと。訪れたのは12月初旬でありましたが、色づき始めたいちごの収穫が行われていました。

来年の6月頃までは収穫できるといふことで、クリスマスまでは出荷に専念し、12月下旬から観光農園として、いちご狩りを行う予定とのこと。また、敷地内に入居する会社と協力し、地域交流イベントを6月から3回開催しており、近隣の保育園等を招待し、さつまいもの苗植えや収穫などを通じて地域の皆さんと交流をしていく事業を行ったとのことであり、サツマイモ畑の土は、放射性物質の影響も考え、表土をけずったうえで苗植えたとのことでした。これからも、いわき産いちごの生産拡大に貢献していただきたいと思えます。(執筆 渡邊 和夫委員)

農業委員会のうごき

視察研修受け入れ

○東京都西多摩地方農業委員会連合会  
去る10月3日(水)、東京都西多摩地方農業委員会連合会委員15名の農業委員視察研修の受け入れを行いました。

研修では、東日本大震災からの復興状況や本市農業の現状、本市農業委員会の活動についてなどを説明し、参加者からは、活発な質問があり、意見交換等が行われました。その後、現地視察として約1時間にわたり、米の全量全袋検査を行うJAいわき市高久支店、津波の被害を受けた薄磯地区や豊間地区の農地を視察しました。



時間程度、薄磯地区と豊間地区の農地を視察しました。

○熊本県多良木町農業委員会  
去る11月1日(木)、熊本県多良木町農業委員会委員20名の農業委員視察研修の受け入れを行いました。

研修では、東日本大震災からの復興状況、女性農業委員の登用についてなどを説明し、意見交換等を行いました。その後、現地視察として1



○茨城県農業委員会県南連絡協議会  
去る11月19日(月)、茨城県農業委員会県南連絡協議会委員28名の農業委員視察研修の受け入れを行いました。

研修では、東日本大震災からの復興状況や本市農業の現状についてなどを説明し、その後、意見交換等を行いました。

第57回福島県下農業委員会大会

去る11月8日(木)、福島市飯坂町「パルセいいざか」において、福島県農業会議主催による第57回福島県下農業委員会大会が開催されました。大会には、1,000人を超える県内市町村の農業委員や関係者らが参集し、いわき市農業委員会から



も23名の委員が参加しました。議事では、福島県農業の再生に向けた総合的支援の加速化と来年度における農業政策

国内先進地視察

農業委員会では、第57回福島県下農業委員会大会の翌日となる11月9日(金)、山形県山形市で農業に関する先進的な取り組みを行っている山形市農業委員会を視察しました。山形市農業委員会では、市民に対し農業の大切さについて理解促進を図るとともに、地産地消を推進するため、市内各地区を5ブロックに分けて長年「食農交流事業」を行い、各種イベントを開催し、市の農業の現状と地産地消について理解を深めるとともに、農業委員会の活動をPRして市民に伝えており、平成23年6月10日付け全国農業新聞に



の着実な推進として、「東日本大震災及び新潟・福島豪雨等からの早急な復旧・復興」、「原子力災害対策」、「来年度に向けた農業政策」について国に要望することを決めたほか、新「1・1・1運動」を基本にした農業委員会活動のさらなる強化に関する申し合わせを決議しました。



において、「市民と食農交流」として取り上げられました。今回の研修では、同じ市内各地区を5ブロックに分けて活動していることもあり、多くのことを学ぶことができ、大変有意義なものとなりました。今後とも行動する農業委員会として、目に見える取り組みを積極的に行ってまいりたいと思えます。